

## (2) 中学選択プロジェクト

藤田 高弘

### I 中学選択プロジェクトの実践の概要

#### 1. 中学選択プロジェクトの授業実施状況

中学選択プロジェクトの授業は、2001年度から併設型中高一貫カリキュラムに導入された。一年間の授業実践を引き継ぎ、2002年度には新しい講座も展開された。2001年度の中等教育研究協議会での発表や討議、1年間の実践から今後の問題点も明らかになってきた。

そこで、本稿では1年間の実践から選択プロジェクトの授業計画、評価の観点と、生徒による自己評価をまず総括していく。また、研究開発の総括の年である来年度に向けて、学校全体のカリキュラム全体から概観した選択プロジェクトの在り方や今後の展望をまとめてみる。

#### 2. 中学選択プロジェクト学習の特色

中学選択プロジェクトの特色をまとめると次の6つにまとめることができる。

- 1) 9教科からなる幅広い選択講座がある。
- 2) 選択による高い動機付けをともなう学習である。
- 3) 学習者参加型の学習である。
- 4) 課題追求型の学習である。
- 5) 異年齢による学びの共有を目指している。
- 6) 効果的な少人数学習である。

これらの学びの特色を実現させる為の授業展開は以下のように実施された。

- 1) 2時間連続授業(100分)とする。
- 2) 中学2年で2回(前期・後期)、中学3年で2回(前期・後期)、合計4回の選択(同一講座は選択できない)とする。
- 3) 通常の教科授業では時間・人数の制約から充分にできない学習内容を教科の視点から、教師が学習計画を立案する。
- 4) 学外講師(大学、市民講師等)とのチーム・ティーチングを積極的に追求する。

上記の特色や授業展開から期待される効果として

は、1) 学習者の興味・関心の掘りおこしや課題追求の機会を与えることができる。2) 浅く、広い学習を通して、個を探り、また自立と共同の学びを可能にする。3) 各教科を多面的に追求することにより、学習内容を深めたり、学習項目の関連に気づいたり、新たな観点から学ぶことができる。4) 自己の個性を新たな観点から探求する機会が与えられることになり、自分の個性を探る経験ができる。5) 選択による学習への動機付けが高まり、また自己決定の経験を増やすことができるといった5つが考えられる。

#### 3. 併設型中高一貫1-2-2-1制のカリキュラムの中での選択プロジェクト学習

本校の併設型中高一貫のカリキュラムは、6年間を1-2-2-1制に発達区分している。具体的には「個性を探る」から「個性を伸ばす」の一貫性を基に、入門基礎期、個性探求期、専門基礎期、個性の伸長の4区分である。選択プロジェクトは1-2-2-1制の個性探求期の2年間に実施される学習である。浅く、広い学習を通して、個を探り、また自立と共同の学びを目標とする区分期でもある。そこで、選択プロジェクト学習では9教科から選択できる学習の機会を用意し、また異年齢の学習形態をとる。

また、専門基礎期の2年間にある新教科群との連携をも視野に入れている。新教科は基本的に教科が主体となるが、学習テーマが大きく、深く、多様に設定するので学習の内容が教科融合、合科的なものとなる。その学習目標を達成できるように、各教科の枠内で発展的な学習に必要な基礎力を選択プロジェクト学習では培うことも視野に入れている。

#### 4. 2001年度選択の状況と講座内容

2001年度は中学9教科から10講座(英語2講座)を土曜日の1・2時間目の2時間連続で展開した。担当の教官は、今年度の各教科の授業担当を総合的に考慮し各教科から選出した。結果としては、中学

2年、3年の学年を担当する先生が選択プロの授業担当者になる場合が多いが、当該学年の担当ではない教官が選択プロの授業担当者にもなっている。2001年度前期、後期では10講座が用意された。各教科の担当者が8回分、2時間連続の授業計画を考案し、生徒向けの講座内容紹介の要項を作成した。

講座名と講座内容紹介の要項を基に各学年で前期は3月に、後期は9月に希望調査を実施した。2001年度については中学2年生は第6希望まで、中学3年生は第4希望までの講座の希望をとった。生徒の講座選択にあたっての注意事項として、自分の興味・関心を考慮し、自分でよく考え自己決定するように促した。また、講座設置の都合によるものであるが、中学2年生には来年度も同じ教科の同じ講座があるとは限らないことを考慮して選択することや、講座内容は講座参加人数等により多少変更があること等を伝えた。

選択プロジェクト希望調査後の各講座の第一希望の人数は前期・後期ともに表1・表2のように偏りがでた。調整の基本方針として、1) 可能な限り生徒の希望を実現する。2) 少人数による講座の展開を実現する。3) 多少20人を超えても、10人を下回っても開講することにした。また、前期第二希望へまわされた生徒の中で後期に同講座を第一希望にした場合は、優先的に第一希望へ入れた。

表1 2001年度前期講座内容と選択希望者の人数

講座名	第一希望人数	第二希望調整後の人数	中2：中3の割合
SAMAZAMA書き方教室	5	13	(J2:11, J3:2)
裁判ウォッチング	32	23	(J2:8, J3:15)
数検にチャレンジ!	32	21	(J2:13, J3:8)
身近な植物に親しみ	16	19	(J2:18, J3:1)
音楽文化史	5	12	(J2:1, J3:11)
目指せ! デジタルアーティスト	27	20	(J2:11, J3:9)
附属発! 未来のスポーツ	28	20	(J2:4, J3:16)
立体製図と木工	7	15	(J2:7, J3:8)
English Storytelling	2	5	(J2:4, J3:1)
Make Drama and Play Drama	7	13	(J2:4, J3:9)

表2 2001年度後期講座内容と選択希望者の人数

講座名	第一希望人数	第二希望調整後の人数	中2：中3の割合
SAMAZAMA書き方教室	5	11	(J2:11, J3:0)
裁判ウォッチング	7	14	(J2:12, J3:2)
数検にチャレンジ!	32	23	(J2:14, J3:9)
身近な植物に親しみ	20	18	(J2:6, J3:12)
音楽文化史	12	19	(J2:7, J3:12)
目指せ! デジタルアーティスト	36	20	(J2:8, J3:12)
附属発! 未来のスポーツ	28	20	(J2:7, J3:13)
立体製図と木工	8	13	(J2:11, J3:2)
English Storytelling	1	7	(J2:2, J3:5)
Make Drama and Play Drama	10	14	(J2:2, J3:12)

各講座のタイトルからも分かるように、各講座とも通常の教科授業では時間・人数の制約から充分に取り扱うことができない学習内容を教科の視点から考えた授業計画が実施された。2時間連続で時間が一度の授業で十分確保できるので、各講座とも、実験、作品製作、創作活動、発表活動を通して生徒が主体的に取り組む学習内容になった。そして、各教科の教科学習の目標がそれぞれの講座に位置づけられ、各教科の観点から補いたい、深めたい学習内容が計画されていた。このことは、通常の時間における教科学習との関連や影響を考えると重要な意味を持っている。すなわち、各教科の一環である選択プロジェクトの授業で学習者自身が「学びの意味を紡ぐ」ことにつながることを期待しているからである。選択した講座の内容が通常の教科学習にプラスの意味で反映され、学習内容を深めたり、新たな観点から気づいたり、見つめ直しがなされることを期待しているからである。

## 5. 2001年度前期の生徒の評価

2001年度の前期が終了し、2月の研究協議会を迎えるにあたり生徒の選択プロジェクトのアンケート形式で評価を実施した。アンケートの内容は選択プロジェクトの目標に沿った内容で、1) 通常の授業とは異なる内容、知識、技術等を学ぶことができたか。2) 少人数授業の効果はどうだったか。3) 選択した教科の意欲・関心等の情意面は高まったか。4) 異年齢での学びをどう評価したか。以上を主な質問項目とし、また自由記述も取り入れ、前期が終了した直後に実施した。以下そのアンケート結果の表である。尺度は4段階として、4:とても思う

3:まあ思う 2:あまり思わない 1:全く思わないとした。

1) 通常の教科授業では学習できない内容を学習できた。

	度数	有効パーセント
1	3	1.9
2	10	6.4
3	50	31.8
4	94	59.9
合計	157	100

2) 通常の教科授業では学習できない方法で学習できた。

	度数	有効パーセント
1	4	2.5
2	13	8.3
3	56	35.7
4	84	53.5
合計	157	100

3) 通常の教科の授業とは異なる教科の学習力、技術力が身についた。

	度数	有効パーセント
1	7	4.5
2	21	13.5
3	66	42.3
4	62	39.7
合計	156	100

4) 通常の教科の授業とは異なる知識を得る機会となった。

	度数	有効パーセント
1	4	2.6
2	17	10.9
3	52	33.3
4	83	53.2
合計	156	100

5) 少人数で学習できたので、学習に取り組みやすかった。

	度数	有効パーセント
1	8	5.1
2	35	22.3
3	47	29.9
4	67	42.7
合計	157	100

選択プロジェクトの各講座の学習内容については、通常の授業とは異なる内容を91.7%の生徒が学習できたと考え、学習の方法についても89.2%の生徒が普通の授業とは異なる方法で学習できたと回答

している。初期の目標であった通常の教科授業では時間・人数の制約から充分に取り扱うことができない学習内容を講座の目標に合わせた学習方法で十分に展開されたことを実証している。教官の視点から推測すると、授業時間の保障、学習環境や形態が整えば補いたい、深めたい学習内容が確実にあると考えられる。

次に通常の授業とは異なる学習力、技術力、知識については、学習力、技術力がこの選択プロジェクトの授業を通して身に付いたと肯定的に答えた生徒が82%、知識を得る機会となったと肯定的に答えた生徒が86.5%であった。講義形式や、座学とは違う、学習者が積極的に学びのプロセスに深く関わりを持っていたという事を示していると考えられる。それを、支える一つの要因として小人数による授業形態が考えられる。72.6%の生徒が少人数学習によって学習に取り組みやすかったと答えている。また、教官にとっても、きめ細かい指導計画や大胆な授業計画が立案しやすかったと考えられる。少人数による授業、その人数に最適化した授業計画、選択による比較的高い動機付けをともなった学習という3つの条件がそろうことによって生徒自身の学習への肯定的なイメージが作られたと推測できる。

6) 自分の選択している教科が以前より好きになった。

	度数	有効パーセント
1	13	8.3
2	26	16.7
3	60	38.5
4	57	36.5
合計	156	100

7) 自分の選択している教科への興味・関心が高まった。

	度数	有効パーセント
1	11	7
2	26	16.6
3	60	38.2
4	60	38.2
合計	157	100

## (2) 中学選択プロジェクト

### 8) ふだんの教科の授業への意欲が高まった。

	度数	有効パーセント
1	15	9.6
2	45	28.8
3	63	40.4
4	33	21.2
合計	156	100

次に、生徒の情意的な側面を見てみる。自分の選択している講座の教科に関する、興味・関心、意欲におういても肯定的な回答をする生徒が多かった。以前より好きになったと答える生徒が、75%いた。選択している教科の興味・関心が高まったという生徒が76.4%であった。さらに、選択した講座とその講座の普段の教科の授業との関連を見てみると、61.6%の生徒が、選択プロジェクトの授業を通して普段の授業への意欲が高まったと肯定的に答えている。

選択プロジェクトの授業の目的である興味・関心の掘り起こし、普段の授業で扱われる単元ごとの学習項目の関連性への気づき、また新たな観点からの学びといった学習プロセスがあったと推測できる。もちろん、それぞれの講座を選択した生徒の約8割は第1希望、残りの約2割の生徒も第二希望の講座に入っているの、元々の動機付けが高いと考えられるので、学習内容や方法だけがよかったと言えないであろう。しかしながら、自分の選択した講座に対する動機付けが高いだけで、講座の学習内容に肯定的なイメージを抱くことは少ないと考えられる。生徒の興味・関心を土台に、教官が各教科の観点から指導計画を立て新たな学習素材や学習方法を創意工夫し、学習への積極的な参加を図ったと考えられる。その結果として、学習項目への関連性に自ら気づいたり、新たな観点から学び直すことで、選択した講座の教科への興味・関心が高まったり、普段の教科授業への意欲が高まったと考えられる。

教育課程にある既存の教科授業と選択プロジェクトの授業の関連性や系統性を持たせたり、自ら気づく仕掛けを選択プロジェクトの授業計画に組み入れることが重要である。上記の観点を、併設型中高一貫カリキュラムの1-2-2-1制の個性探求期の2年間で行う選択プロジェクトの目標の1つとしてしっかり押さえておく必要がある。

### 9) 異なる学年の生徒と学習したので、学習の助けとなった。

	度数	有効パーセント
1	34	21.8
2	60	38.5
3	42	26.9
4	20	12.8
合計	156	100

### 10) 異なる学年の生徒と学習したので、学習の意欲が高まった。

	度数	有効パーセント
1	35	22.4
2	61	39.1
3	49	31.4
4	11	7.1
合計	156	100

異年齢学習については、表1・表2の中学2年生、中学3年生の割合から見て分かるように、一講座内の中学2生と中学3年生の数はバランスよく配分することができなかった。それは、選択の希望を最優先した結果、異年齢の数のバランスまでを考慮した調整が困難であったからである。また、指導法において異年齢を考慮して学習内容、方法を展開しやすい教科と、難しい教科があった。その結果として、39.6%の生徒が異年齢の学びが自分の学習の助けとなったと答えており、情意の面においても38.5%の生徒が異年齢により学習意欲が高まったと答えたにとどまった。肯定的な答えが半数を下回ったのはこの項目だけであった。とはいえ、教科によっては異年齢による学びあいの良い機会となったり、学習への良い刺激となったと自由記述の中にあった。

## 6. 評価基準の作成意図と内容

通常の教科にある観点別の評価を基盤に、選択プロでの授業の目的、目標に合った新たな観点別の評価基準を設けた。各講座の基本となる観点を抽象的に4つ設けた。それは、1) 事象への関心・意欲・態度、2) 創意工夫する能力、3) 学習内容をまとめ・表現する能力、4) 事象についての知識・理解である。選択プロは教科が主体で授業が構成され、教師が学習内容を構成して教科の視点から、補ったり、深めたり、育てたり、身に付けさせたい観点がある。そこで、前述の抽象的な観点の項目から具体的な評価基準を各講座の担当者が設定した。これは、今後の選択プロジェクトの評価の在り方を考える時の重要な資料ともなる。また、既存の教科との系統性や関連性を強く求めるならばこの評価基準、

評価フォーマットの研究をさらに深める必要がある。さらに、専門基礎期にある高校での新教科群との接続を考えるならば、系統的に伸ばしたい学習力を評価するシステムを考える必要がある。基本的に評価は学びの方向を決めると考えるからである。

## 7. まとめと今後の展望

研究開発の総括の年である来年度に向けて、今日までの実践から明らかになってきた問題点や課題を最後にまとめたいと思う。本校の中学選択学習は、趣味的なクラブ活動とは目的を異にする。それは、教科の観点から補いたい、深めたい学習内容を生徒が主体的に学べるように授業を構成し、模索しながら、生徒とともに学びを創る実践であるからである。選択プロジェクトの学びが普通の授業にフィードバックされることを念頭に入れて授業を創るからでもある。基本は各教科を主体にした発展的な授業と言える。

2001年度のアンケート調査から推察できることがある。少人数による授業、その人数と参加生徒の個性に最適化した授業計画、選択による比較的高い動機付けをともなった学習という3つの条件がうまくかみ合うことが大切である。

既存教科、専門基礎期での新教科群との系統性を考えると、選択学習での評価システムを充実させていく必要がある。特に、自己の個性を探り、探求する機会を与えつつ生きて働く知識を養うことを目標にするならば、講座事の評価観点にとどまらず、学びを方向付け、個の学びの過程が見えてくる有機的な評価システムを考案する必要がある。

また異なる問題点として、9教科10、11講座、半期2時間連続8回分の展開が真に個の個性を探求する機会に成りえているのかという議論もある。講座数が多いことにより間口が広すぎる可能性もある。また、2週間おきにあり、8回という短期で一講座が終わり、2度同じ講座を選択できない制度になっていることが、個性を探求する経験を狭めている可能性もある。この点を今後調査してみる価値がある。

次に今後の課題として、学校全体のカリキュラム全体から概観した選択プロジェクトの在り方を考えてみる。本校の中学選択学習が、各教科、専門基礎期での新教科群、総合学習との関連や系統性をどのように位置づけていくのかという問題である。選択授業の担当者が実施したい学習内容と生徒の選択したい学習内容が限りなく一致するというシンプルな方針も大切である。生徒が選択授業のシラバス作りに参加するという方向性もある。一方で、各教科、

中学選択プロジェクト、ソーシャルライフ、基礎・基本の時間、高校新教科群が相互に有機的に関係し自律的な個の確立、生活と学びを共有できる集団作りとなるように相互の関連性や系統性を展望し今後の在り方を考える必要もある。

このような目標を実現させる為に、配当教官人数、選択方法等の在り方で明らかになってきた問題点を解決し充実させるシステムを展望し、必要となる人的、物的資源を社会に提示し要求するカリキュラムの発展的評価がさらに必要である。

(文責：藤田高弘)

## Ⅱ 中学選択プロジェクト資料：各講座の授業目標・計画と評価の観点

### 1) 授業目標・計画

#### 1 教科：国語科

#### 講座名：SAMAZAMA書き方教室

#### 教科としての目標

ワープロが普及する中で、手書き、手作りの良さを感じさせ、自由に書くことの出来る技術（小筆の使い方、様々な文章の書き方）を習得させる。

#### 本講座の目標

1. 手紙を書くことにより、手紙の形式を知るとともに、時候の挨拶で四季にあった言葉を探したり、本文で相手に気を遣った表現を考えたりすることで、自分の文章作成能力の幅を広げる。
2. 自分の好きな言葉の理解を深めたり、書写の手本となる文章の理解をすることにより、自分の文章理解能力の幅を広げる機会とする。
3. 小筆を使って文章を書くことにより、落ち着いて物事に取り組む姿勢を身につけるとともに、手書きの良さを味わい、書写の技術を習得するための練習の機会とする。

#### 授業計画

- 第1回 手書きの良さについて。毛筆に慣れよう  
1 (小筆の使い方の慣れる)
- 第2回 毛筆に慣れよう 2 (文章を小筆で写してみる)
- 第3回 手紙を書いてみよう (手紙を書くときの約束や手紙の種類を知る) (自分で文章を書く)
- 第4回 書いた文章をなおしてみよう (推敲の方法や文体の統一の仕方、原稿用紙の使い方などを知り、文章を直してみる) 手紙を書いてみよう) 2 (小筆で書いてみる)
- 第5回 作品を作ってみよう (俳句や短歌、好きな

- 言葉や歌詞の書写など作品にしたいものを決める)
- 第6回 作品を書く紙を作ろう(紙すきをして、自分の字を書く紙を自分で作ろう)
- 第7回 作品を作ってみよう(字体や字の大きさ、レイアウトなどについて考え自分の作品に生かして作る)
- 第8回 作品を送ってみよう(自分ですいた紙の葉書に文章を書いて送ろう)
- (文責:今村敦司)

## 2 教科:社会科

### 講座名:裁判ウォッチング

#### 教科としての目標

この社会を詳しく知ろう。深く見つめよう。

#### 本講座の目標

日本にはどのような法律があるのか調べる。裁判のプロセスを学ぶ。法律と常識について考える。

#### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 六法を読む
- 第3回 法律についての諺(ことわざ)を学ぶ
- 第4回 大学院の先生から裁判のプロセスの話を聞く
- 第5回 裁判の傍聴(冬休み、自由参加)
- 第6回 新春法律カルタ遊び
- 第7回 討論会

(文責:川田基生)

## 3 教科:数学

### 講座名:数研にチャレンジ

#### 教科としての目標

数学の問題に親しみ、普段の授業では十分に扱えない問題を時間をかけて解いてみる。計算力、応用力、問題を分析する力をつける。

#### 本講座の目標

普段の授業では、じっくりと問題を解くことができないので、この授業では、時間をかけて、友人と相談しながら、問題を解く楽しさを感じてもらいたい。

#### 授業計画

- 第1回目前半
- 数学検定の紹介とレベルの内容。自分でレベルを決定する。

#### 第1回目後半

自分で決めたレベルの問題を解いてみる。(この回で、レベルを決定して問題集を購入する)

#### 第2回目~5回目

問題集で各自問題を解き、各自で答え合わせをする。1日、1回分。相談してもよい。先生に聞いてもよい。

#### 第6回目~8回目

2次、数理技能検定の問題(プリント)を解く。できた問題を、黒板に解き方を書いて、説明する(生徒同士で)1学習の方法自分で問題を解くことで、解けることの楽しさを実感する。次に、できた問題を他の人に説明することで、より明確に問題を認識できることを実感する。また、同じ問題でも違う解き方があることを知る。

(文責:大口悦子)

## 4 教科:理科

### 講座名:身近な材料を使って観察・実験をしよう

#### 教科としての目標

通常の授業では十分に扱えない観察や実験をすることで、科学的なものの見方、考え方を養い、筋道を立てて考え、探究する力を身につけることを目標とする。

#### 本講座の目標

身近にあるものを用いて観察・実験をすることにより、科学的な興味・関心を高め、知識を深めていくことを目標とする。また、観察・実験により生じたさまざまな意欲に基づいた実験を考え、それを実行することを目標とする。

#### 授業計画

私たちは、毎日の食生活でいろいろな食べ物を食べています。食べ物に含まれている栄養素には、炭水化物、脂質、タンパク質などがあり、生活活動のエネルギー源となっています。選択プロジェクトでは、身近にある食品を使って、炭水化物、脂質、タンパク質に着目した実験を通して探究する力を身につけ、これら3つの性質を理解していこう。

#### 第1回~第2回 炭水化物の性質(1)

~食品の糖分析~どんな食品にブドウ糖やデンプンが含まれているのかを調べよう。

デンプンづくり・観察~デンプンを多く含む食品であるいも類からデンプンを取り出し、観察する。

#### 第3回 炭水化物の性質(2) ~水あめづくり~

デンプンを酵素と反応させて、水あめをつくろう。

#### 第4回 脂質の性質(1) ~石けんづくり~

油、バター、マーガリンなどとアルカリを反応させ、いろいろな香料を用いて石けんをつくろう。

第5回 脂質の性質(2) ～ろうそくづくり～

石けんと酸を混ぜてろうそくをつくろう。

第6回 タンパク質の性質 ～チーズづくり～

牛乳と酸を混ぜてチーズをつくろう。

第7回 炭水化物、脂質、タンパク質の応用実験とまとめ

(文責：西川陽子)

## 5 教科：音楽科

### 講座名：音楽文化史

#### 教科としての目標

普段の授業ではできない音楽の裏側を探ったり、鑑賞したり、実際に演奏したりする。

#### 本講座の目標

音楽の幅の広さ、奥行きを認識する。

#### 授業計画

第1回～第2回

音楽の種類にはどんなものがあるのか、世界の様々な音楽を調べる。

第3回～第4回

世界の音楽が発生してきた背景にある歴史的な事柄について学習する。

第5回～第6回

各自で調査した資料に基づき、その成果を発表する。

第7回～第8回

ユニークなエピソードを持つ音楽を鑑賞したり、合唱したりして、直接その音楽に親しむ。

(文責：米田閔一)

## 6 教科：美術科

### 講座名：目指せ！ デジタルアーティスト

#### 教科としての目標

1. CG作品の製作を通して、ネットワーク社会における情報のモラルや活用能力を身につける。
2. 発想力・構想力を養うとともに、より幅広い美術の表現力を身につける。
3. 異学年間の交流を通してお互いの良さを認め合い、助け合いながら制作しようとする態度を身につける。

#### 本講座の目標

1. CG作品の製作を通して、デジタル画像の加工や合成の技能を身につけ、実生活に生かす。

2. 作成したCG作品をはりつけたホームページをつくり、情報発信の基本的な技能やルールを身につける。

#### 授業計画

第1回 チャットを使っての他学年生徒と交流する中で文字入力に慣れるとともに、チャット使用時のマナーを理解する。

第2回 インターネット上の素材集・画像を活用し友達へのプレゼントをつくる。その中で著作権などインターネット使用時のルール・モラルを理解する。

第3回 フォトレタッチソフト (Paint Shop Pro) のお絵描き機能・文字貼りつけ機能を使い、簡単なCG作品を作成する。

第4回 デジタルカメラの基本的な操作を知り、風景や人物の画像を撮影する。撮影した画像をコンピュータに取り込む。

第5回 フォトレタッチソフト (Paint Shop Pro) の機能を生かし、コンピュータに取り込んだ画像を加工・合成してポスター作品をつくる。

第6回 ホームページ作成ソフト (Netscape Composer) を使い、今まで作った作品を掲載した自分のホームページを作成する。

第7回 班のホームページとして、名大附新発見クイズを作り個人のホームページをリンクさせる。

第8回 選択プロジェクトの校内専用ページにリンクさせ、作品の成果を全校に発表する。またプリントアウトした作品を額装して校内に展示する。

(文責：岡村 明)

## 7 教科：体育科

### 講座名：附属発！ 未来のスポーツ

#### 教科としての目標

普段の体育の授業では扱わないスポーツ種目を行ったり、またスポーツの歴史やルールを学ぶことによって、スポーツに対する幅広い教養と技能を身につけることを目標としています。

#### 本講座の目標

スポーツの歴史を学び、現在のルールや道具の由来を考える。新しいスポーツを体験し、生涯スポーツへ継続することが出来る知識を身につける。

#### 授業計画

第1回 スポーツの起源を知ろう

私たちが体育の授業で行っているカタカナのスポーツは外国からやってきました。伝わった時には、現在のような設備も、道具もなかったでしょう。さあ、どんな風にやっていたの？昔を覗く第一歩です。

#### 第2回～第3回 身近なスポーツって遊ぶこと？

夏休みに外で1日中駆け回って遊んでいた自分を思い出してみてください。「これを飛び越えたら勝ちね。」「誰が一番早いか競争ね。」と知らないうちに、自分たちでルールを作り、技術やスピードを競って遊んでいませんでしたか。スポーツに近いと思いませんか。こんなにも身近で、簡単なものなのですか。あ父さん・お母さんの時代は、体を使って何の遊びをしていたのでしょうか。今日も昔を覗いて見ましょう。

#### 第4回～第6回 ニュースポーツを知ろう

生涯スポーツって知ってる？生涯を通じてスポーツ活動を自分の生活に取り入れることでず。それぞれの方が、様々な形でスポーツに携わることができればよいのです。ダイエットのため、仲間を作るため、運勢不足解消のため、動くことが好きだと…いろいろな人がいると思います。そのために、年齢・性別を問わず、障害者も健常者もみんな一緒にできる、ニュースポーツをえてみましょう。さあ、未来に目を向けましょう。

#### 第7回～第8回 新しいスポーツを作ろう！

今度は、自分たちでユボーツを作って見ませんか。幼い頃に、自由に発想した遊びから、みんなで楽しめるスポーツを作り出そうではありませんか。あなたは、ボールを使う？もしくは、器具まで手作りでするか？未来の体育の教科にのるのは、誰でしょう。

(文責：大林直美)

### 8 教科：技術科

#### 講座名：立体製図と木材加工

##### 教科としての目標

製作を通して、ものづくりの基本を身につけ、楽しさを知る。

##### 本講座の目標

1. パソコンを使った立体製図を身につける。
2. ノミ、かんな、そして、角のみ盤の使用を通して、加工の基礎を身に付け、手作業と機械工作の生産性の違いを理解する。

##### 授業計画

第1～2回 コンピューターを使って立体製図をや

ろう！

ワイヤーフレーム表示の立体をグリグリと自由に動かして、さまざまな角度から見ることができます。立体の作成がとても簡単なソフトを使います。立体を動かして、三次元空間上に直線が描かれていることを確認しながら、きわめて簡単に立体を作図することができます。立体感覚のない人でも大丈夫です。

#### 第3～4回 のみとかんなの基礎

2時間かけてのみとかんなをそれぞれ学びます。かんなの刃を調整しながら削っていきます。たくさん削り屑を出しながらかんなの基礎を学びます。のみも三枚組継で一応学習しましたが、どちらかというところ叩いて割ると言う感じだったと思います。ここでは四角の穴を削りながらあけることを学びます。

#### 第5～8回 鍋敷き作り。今年は荒材を用いて、鍋敷きを作ります。

荒材と言うぐらいですから、表面がざらざらの木材です。その材にかんなをかけ綺麗にし、のみで穴を開けます。後半はのみだけでなく、角のみ盤を使います。手作業と機械作業の差を知ることを目的とします。また、鍋敷きは、同じ大きさの材料を4つ作り井型に組ます。加工の順番や方法を身につけることを目的とします。

(文責：鈴木善晴)

### 9 教科：英語科

#### 講座名：英語で表現

##### 教科としての目標

英語で自己表現できる国際人を目指す。

##### 本講座の目標

英語自己紹介活動として、英語の自己紹介を2～3分のスピーチにまとめ、いつでもえるように徹底的に練習する。英語表現活動としては、英語の絵本、ビデオレター、英語紙芝居などをペアーまたは単独でオリジナルのものを作り、作品を口頭で互いに発表する。最終日の発表会を演出たっぷりで行ったり、発表会を盛り上げる方法を皆で話し合っ

##### 授業計画

- 第1回 英語自己紹介 ① (絵や写真、実物などを皆に見せながら自己紹介の英語を学ぶ)
- 第2回 作品作り (作品の構想、準備)
- 第3回 英語自己紹介 ②と作品作り
- 第4回 作品作り (製作)



- 第5回 英語自己紹介 ③と作品作り (製作)  
 第6回 中間発表会 (ペアやグループ発表)  
 第7回 作品手直しと発表会のやり方  
 第8回 英語の自己紹介 ④と本番発表会  
 (文責：鈴木克彦)

10 教科：英語科

講座名：Make Drama and Play Drama

教科としての目標

1. 心と体と頭を使う英語自己学習力を身に付ける。
2. 実践的な英語コミュニケーション能力の基礎を身に付ける。

本講座の目標

1. 言語用法 (Language Usage) より、言語使用 (Language Use) を重視した学習により、言語の運用能力を高めたり、学習者参加型の授業を目標にする。
2. 音声表現を通して、話しての意図を理解したり、場面や目的に応じた英語の表現形式を身につける。
3. 音声や身体活動を通して、英語の解釈、鑑賞、表現力を深める。

授業計画

第1回

1. 講座目標の説明、英語劇を通しての英語学習法の説明。
2. ビデオで英語劇の鑑賞や討論をする。
3. 英語の発音、リズム、イントネーション、ストレス等の基礎練習をする。

第2回

1. 英語の発音、リズム、イントネーション、ストレス等の基礎練習をする。
2. 英語の音声による表現力の基礎的な訓練をする。
3. 英語の音声表現と身体表現の基礎練習をする。

第3回

1. 英語の音声表現と身体表現の基礎練習をする。
2. 英語の物語ビデオを活用し、生徒による英語アフレコビデオ作成の準備をする。
3. アフレコの役割分担とパート練習をする。

第4回～5回

1. 英語の音声表現と身体表現の基礎練習をする。
2. 英語アフレコの通し練習と、英語アフレコビデオを作成する。

第6回～7回

1. 英語の音声表現と身体表現の基礎練習をする。
2. ミニ演劇の配役決め、物語の理解、解釈をする。
3. 役割を決めパート練習、立ち合い稽古をして上演にむけ練習する。

第8回

1. 英語劇の講座内発表会を実施し、発表をビデオに集録する。

(文責：藤田高弘)

2) 評価の観点

講座名：SAMAZAMA書き方教室 評価の観点

1. 国語に関する関心・意欲・工夫  
意欲的に授業に取り組もうと努力するとともに、注意点に気を付けて課題を取り組み、自分なりの工夫をしている。
2. 文章作成の能力  
様々な文章を、形式に合った形で適切に作成するとともに、相手に対する気遣いや、場にあった内容を表現することができる。
3. 小筆の扱い方と基本的な筆遣い  
小筆の持ち方や姿勢が正しくできているとともに、とめ、はね、はらいといった基本的な筆遣いが正確にできる。
4. 漢字とかなの調和  
筆で書いた文字の漢字と仮名の大きさが適切であるとともに、紙の大きさや行替え、バランスを考えた配置で、読みやすく文字を書くことができる。

講座名：裁判ウォッチング 評価の観点

1. 与えられ管理された集団での思考ではなく、みずから選択した個人として学ぶことにより、市民としての社会への興味・関心の掘りおこしをしたい。
2. 裁判の傍聴、学外の方々のお話など、新しい情報に対し個性的な読み取りを期待している。
3. 証人、弁護士等の話し手の意図を知性、情意の両面でおさえたうえで、場面や目的に応じ法廷の表現を理解する。
4. 社会の実情に触れることにより、学習内容を深める。学習項目の関連を現実の事件に即して気づかせたい。

講座名：数研にチャレンジ 評価の観点

1. 自分から進んで、問題に対して、真剣に取り組んで、解こうとする意欲や態度また、分からないところは、他の人に聞いて自分で理解しようと努力する。
2. 今まで見たことがないタイプの問題でも、自分

の力で、まず解いて見ようと努力する。

分からなくても、まず自分で解いてみようとする。

2. 自分で解いた問題を、他の人に分かりやすく説明することができる。新しく知った知識を、他の人に説明できる。問題が解けなくて困っている人に解き方を教えたり援助できる。

**講座名：身近な材料を使って観察・実験をしよう 評価の観点**

1. 身の回りのものに関心を持ち、炭水化物、脂質、タンパク質の性質に着目した観察・実験を意欲的に行い、それらを進んで探究しようとする。
2. 身の回りにある炭水化物、脂質、タンパク質に関連したことに問題を見つけ、観察・実験などを行い、科学的に考察したりする。
3. 観察・実験の基本操作を習得し、結果の記録や考察をまとめたり、発表することができる。
4. 観察・実験を通して、身の回りにある炭水化物、脂質、タンパク質の性質を理解し、知識を身につけている。

**講座名：音楽文化史 評価の観点**

1. 世界中のいろんな音楽とそれに付随している様々な歴史的背景に対して、如何に興味を持っているか、そして、どれくらいの情熱を持っている。
2. 音楽の大きな柱である歌唱の表現を通して、世界の民族音楽やら、民謡といった様々な音楽を表現したり、それらを自分の創作的な感性の中で如何に消化させ、また、ひらめきや個性を表現することができる。
3. ローマ・カトリック教会のグレゴリオ聖歌から、現代に至る様々な音楽の中から、自ら進んで文化的な背景を考慮し、また模索して、音楽の本質を凝縮していく過程を重視し、またそれらの潜在的なファクターとか真髄を把握する力を有している。
4. 音楽の持つ歴史的な動機付け、それらの事実や裏付けといったものを如何に知識として把握し、理解している。そして、音楽の持つ精神性を現代の百花繚乱的芸術感として、普段の生活の中に敏感に反映させていくことができるかが極めて重要である。

**講座名：デジタルアーティスト 評価の観点**

1. CGの参考作品の美しさやよさを感じ取り、コンピュータの諸機能を積極的に活用して作品制作や実生活に生かそうとする意欲が身についている。チャットやホームページによる情報発信

のマナーやルールについて理解し、遵守して制作しようとする意欲が高まっている。異学年の差を気にせずに、互いに協力したり教えあうことができる。

2. CGの表現効果を生かした独創的な発想ができる。また、コラージュ（はりつけ機能や、アンドゥー（やり直し）機能等により試行錯誤を繰り返し、表現意図にあった構成や配色を追求する。ホームページ作成を通して、より美しく・より効果的な情報発信をするためのアイデアを思いつく。また、その表現意図に合った構成・配色を追求できる。
3. CG作品制作のために、グラフィック機能を理解し、複雑な画像処理能力を身につけた。ホームページ作成とネットワークにリンクするしくみを理解し、表現意図に即して美しく・わかりやすく・正しく情報発信することができる。
4. CGの生徒作品や参考作品の美しさやよさを感じ取り、CG特有な美しい表現を味わうことができる。制作途中に偶然現れるCGの表現効果の美しさやよさを感じ受することができる。

**講座名：附属発! 未来のスポーツ 評価の観点**

1. スポーツに対する関心や、積極的に実践していく意欲を高め、さらに、運動の場（機会）を共有する仲間を尊重し、協力しようとする態度が身についている。
2. スポーツの実践における練習の工夫や、ゲームのルールや操作などを効果的に行うことができる能力が身についている。
3. 新しい運動のルールや技術の組み合わせから、ニュースポーツを考案し、他者に伝達することができる。
4. スポーツの技術体系やルールについての知識・理解を深めることができる。

**講座名：立体製図と木材加工 評価の観点**

1. 意欲的に製作物を作ることに對して、積極的に取り組むことができる。
2. 同じ物を作るにも自分自身の身体能力に応じた加工法がある。自らがそれを判断し、製作物を作ることができる。
2. 正しく理解して加工を行うことができる。手作業と機械作業の生産性の違いを知る。

**講座名：英語で表現 評価の観点**

1. 英語を自分のことばとして語ることができ、誤りを恐れず積極的に英語で表現できる。

2. コミュニケーションをしようという意欲があり、コミュニケーションを成功させるための工夫がある。
3. 共同の学びのための学習コミュニティーの形成に寄与できる。
4. 自己の学習過程を反省的、批判的に振り返ることができる。

**講座名： Make Drama and Play Drama 評価の観点**

1. 音声や身体表現を通して、複雑な感情、深い思考、メッセージ性のある英語を理解したり、英語で表現しようとする意欲が高く、積極的な態度を有している。
2. 音声や身体を最大限に活用し、自己の感情、考えを印象深くメッセージ性を持って英語で伝えることに創意工夫がある。
3. 音声表現を通して、話し手の意図を知性、情意の両面で理解したうえで、場面や目的に応じた英語の表現ができる。
4. 非言語的手段を活用し（例、顔の表情、姿勢、コミュニケーションの相手との位置関係、距離等）、場面や目的に応じた表現ができる。
5. 複雑な感情、深い思考、メッセージ性のある英語を理解したり、英語で表現する為に必要となる語彙の発音、語句や文レベルのイントネーション、ストレス、発話の文脈、発話の状況、発話の意図などコミュニケーションにともなう知識や理解を有している。